

FAQ【2026年版】

分類	No.	質 問	回 答
申請	1	なぜ貴社が次世代を担う基礎研究者の育成支援にフォーカスし、研究マネジメント組織を介した本寄付プログラムを企画したのですか？その意図を教えてください。	世界を取り巻く様々な社会課題の解決には、多様な技術革新がもたらす新たなイノベーションが不可欠であり、ライフサイエンスに限らず、幅広い分野でのサイエンスの進歩が必要であると考えています。一方で、多様な基礎研究活動を支援する研究費は十分とはいえない状況にあると言われています。弊社は、次世代を担う研究者を支援し、持続可能な社会の発展に貢献したいとの思いから、本プログラムを企画いたしました。 イノベーションの種となる基礎的・萌芽的な研究を行っている研究者は外部から把握しにくく、その判断も難しいことから、研究者に接する機会の多い研究マネジメント組織も支援することで、効率的なイノベーションの種の育成や、次世代を担う研究者の育成に必要な教育・サポート体制づくりにも貢献できると考えております。日本に研究基盤を置く弊社としては、大学内の研究者情報に精通する研究マネジメント組織の皆さまのご協力のもと、本プログラムを通じて、次世代を担う研究者の皆さまとともに、日本発の新しいイノベーションを世界へ届けたいと考えております。
	2	2023年度の支援対象は「若手研究者」としていた一方、2024年度以降は「次世代を担う研究者」となっています。なぜ変更したのでしょうか？	各大学・機構のミッションや研究者の人員構成は多様であり、将来的な基礎研究力の向上の観点から特に支援したい研究者は、各大学・機構によって異なることが、過去の申請内容から明らかになりました。そのため、それぞれの特性を生かした自由な研究活動の促進をご支援できるよう、支援対象の表現を見直しました。
	3	支援対象とされている「次世代を担う研究者」の定義はありますか？	いずれかの研究分野で、次世代の基礎研究をけん引するポテンシャルを持つと期待される研究者を想定していますが、具体的な定義は各大学・機構にお任せします。各大学・機構において、基礎研究力の向上に貢献できると判断される研究者へ配分してください。
	4	過去採択大学・機構用の応募申請書の「過年度採択時の寄付金活用状況・成果・自己評価」の内容は審査においてどのような位置づけですか？	当該項目では、寄付金活用の状況・成果の明確性、自己評価の妥当性が過不足なく記載されているかを確認・評価します。 応募申請書内の項目1-1（2）、1-2、2では、この内容を踏まえた記載をお願いいたします。 プログラム4年目を迎え、複数回採択の大学・機構では、過去の寄付金活用成果を踏まえ、より効果的に寄付金が活用される申請を期待します。
	5	審査項目と審査基準において、1-1「基礎研究力等の現状と課題、本プログラム活用の位置づけ」を他の項目と比較してより重視して評価するとの記載があります。なぜこのような記載がされているのでしょうか？	本プログラムも2026年度で4回目となり、多様性に富んだご提案をいただく中で、基礎研究力と応募内容の関係性がやや不明確なご提案もございました。本プログラムは、「基礎研究」の発展を後押しし、日本の基礎研究を支え、世界へはばたく次世代研究者を応援することを目的としています。改めてこの目的に立ち返り、ご提案いただく大学・機構において、基礎研究力の向上に向けてどのように取り組んでいただけるかを、より重視して評価する方針といたしました。ただし、「基礎研究」「基礎研究力」の示す範囲についての考え方は各大学・機構で異なると考えておりますので、ご提案における定義は各大学・機構にお任せいたします。
	6	項目1-1や1-2に「各大学・機構固有の現状と課題を踏まえ」との文言がありますが、どのような内容を記載する必要がありますか？	各大学・機構固有の特性や実態（立地・規模・注力分野・実績・所属する研究者の特性等）を踏まえた、独自性の高い内容を記載してください。 研究時間の減少、研究環境の維持・更新の難しさ、研究をサポートする人材の不足など、多くの大学・機構に共通する課題であっても、自機関固有の課題としてとらえ直した上での提案を期待しています。本プログラムも2026年度で4回目となり、類似する課題や解決方法による申請も見られるようになっているため、各大学・機構の実態に即した具体性のある記載をお願いします。 過去採択事例をHP上に掲載しておりますので、ご参照ください。
	7	項目4-2はどのような内容を記載したら良いでしょうか？	項目4-2には、提案された取り組みを確実に実行するための体制や工夫等（実行可能性の向上）についてご記載ください。一方、項目3-3には、提案された取り組み全体における寄付金の現状把握（使用状況、成果把握）を行う体制・方法についてご記載ください。
	8	申請書で記載する寄付金の用途については、どのレベルでの情報が必要でしょうか。例えば支援する研究テーマの詳細や、研究者に関する情報まで記載する必要はありますか？	申請段階では、研究者や研究テーマを特定した記載は不要です。配分対象となる研究者のどのような活動に本寄付金を活用する予定かについて、ご記載をお願いいたします。
	9	申請書は郵送できますか？	申請書の郵送は受け付けておりません。ウェブサイト記載の申請方法にしたがってご応募ください。
	10	他の大学との共同での申請は可能ですか？	共同での申請はできません。大学については1大学当たり1件、大学共同利用機関法人については、法人を構成する研究機構ごとに応募が可能です。
	11	1つの大学または1つの機構から複数件の応募は可能ですか？	より多様な取り組みを採択する観点から、本プログラムへの応募は、大学については1大学当たり1件、大学共同利用機関法人については、法人を構成する研究機構ごとにご応募が可能です。1大学・機構から複数件の応募があった場合、採択を見送らせていただく場合がございますので、十分にご注意ください。
	12	応募申請書に、図や表を挿入しても構いませんか？	申請書に図や表を追加で添付いただいても構いません。ただし、応募申請書の各項目における指定ページ数以内に収まるようご調整ください。 図や表は、文章で表現することが難しい情報を補足する位置づけで付加していただくようお願いいたします。また、応募申請書ファイルの容量は10MB以下となるようお願いいたします。
	13	過去採択されている大学でも応募することは可能ですか？	過去採択を受けていてもご応募いただけます。応募要項「4. 応募資格」に記載している注意事項をご確認ください。ただし、2026年度より、直近の年度に2回連続で採択を受けた大学・機構（2026年度応募の場合は、2024・2025年度採択の大学・機構）は、異なる部局からの応募も含め、応募対象外としています。なお、2026年度は、2025年度に採択された大学・機構への連続寄付は5件を上限としています。これらの点を踏まえてご応募ください。
使 途	14	採択後のプログラム（ご提案内容：使途・配分等）の変更は可能ですか？	採択後の変更は、原則として認めておりません。 応募申請時にご提案いただいた内容は、審査委員会による評価の対象であり、その内容を踏まえて採択先を決定しております。そのため、採択後に申請内容を変更することは、評価された内容と異なる取り組みとなる可能性がありますので、当初の申請内容に沿ってご使用いただきますようお願いいたします。 申請段階において、実施可能なプログラムを十分にご検討のうえ、申請いただきますようお願いいたします。
	15	基礎研究以外の研究を行っている研究者に寄付金を配分することはできないでしょうか？	本プログラムは、各大学・機構における基礎研究力の向上を目的としていますが、配分対象となる研究者が、基礎研究と考えられる研究分野のみに従事している必要はありません。ただし、本寄付金の活用内容が、各大学・機構における基礎研究力の向上に資するものであることが前提となります。各大学・機構において、基礎研究力の向上に貢献できると判断される研究者に配分してください。

分類	No.	質 問	回 答
使 途	16	寄付金を配分した研究者が他の大学・機構に異動することとなった場合、異動先大学・機構で本寄付を活用（異動先期間への寄付金移管）した活動が続けることは可能ですか？	大学・機構をまたぐ異動の場合は、異動先の大学・機構へ本寄付金を移管して使用することはできません。
	17	寄付の対象となった研究テーマが終了してしまった場合、その寄付金を他の関連研究もしくは別の次世代を担う研究者に使うことは可能ですか？	可能です。支援対象テーマの実施が終了した場合は、申請いただいた取り組み内容の範囲内で、寄付金の活用目的に照らして、他の関連研究または別の次世代を担う研究者への支援としてご活用いただいて差し支えありません。貴学にてご検討ください。
	18	寄付金は、大学の既存のプログラムや企画（予定も含む）に使うことはできますか？また、本寄付のために新たなプログラムを企画する必要がありますか？	寄付金は、既存のプログラム・企画に活用いただくことも、本寄付のために新たなプログラムを企画いただくことも可能です。寄付金を活用いただく際には、本寄付金を用いることについて、支援対象者に明示くださいますようお願いいたします。
	19	項目2-1にて、「（a）基礎研究者へ直接配分される研究に必要な研究費等」が申請総額の60%に満たない場合、審査対象外となりますか？	次世代を担う基礎研究者への直接的な支援を確保する観点から、2026年度より、寄付金の配分について、「（a）基礎研究者へ直接配分される研究に必要な研究費等」の割合を60%以上とする目安を設定しています。60%に満たない場合も申請いただけますが、その理由の妥当性も含めて審査を実施いたします。
	20	寄付金を人件費に充当してもよいですか？	研究者個人の生活費に充当することは想定していませんが、本プログラムの大学・機構内での運用に係る人件費等に充当することは可能です。そのような使途を予定する場合は、申請書にその内容をご記載ください。なお、申請以降は寄付金配分の変更は原則として認められませんのでご注意ください。
	21	提供された寄付金を、パソコンや研究のための機器の購入に活用してよいですか？	次世代を担う基礎研究者の支援のために、パソコンや研究機器の購入が必要と考えられる場合には差し支えありません。その内容を申請書にご記載ください。なお、申請以降は寄付金配分の変更は原則として認められませんのでご注意ください。
	22	当初に想定した使途の範囲で寄付金が余った場合、他の目的に寄付金を活用してよいですか？	申請いただいた内容から逸脱した目的・取り組みへの活用はできません。寄付金は、次世代を担う基礎研究者の支援のため、本プログラムの活用目的・取り組みとして申請いただいた内容の範囲内でのみご利用いただけます。なお、申請内容の範囲内であっても、所定の寄付金使用期間を超えて活用される場合は、追加の報告書のご提出をお願いしております。
	23	自大学が第一三共株式会社と共同研究を行っている／行っていた場合には、本寄付金に応募できますか？	可能です。第一三共株式会社と共同研究を行っている、または過去に行っていた場合は、学内において適切な利益相反マネジメントを実施いただきますようお願いいたします。なお、審査において、利益相反マネジメント（応募申請書 項目3-2）の記載依頼事項を満たさない場合は、採択を見送る場合がございます。
	24	寄付金は、現在、実施しているプログラムの強化やその上乘せのために使うことができますか？	既存のプログラムで次世代を担う研究者を支援できるものであれば可能です。その場合は、強化のポイントや期待できる成果等を申請書にご記載ください。
審 査	25	審査は誰が行いますか。また、支援金額はどのように決定されますか？	第一三共の社外の有識者で構成された審査委員会において、各大学・機構から申請された内容をもとに審査し、支援の可否や支援金額を決定します。
	26	審査結果はどのように通知されますか？	審査の結果は、事務局から申請担当者宛てにメールでご連絡します。
	27	審査結果について異議申し立てはできますか。また支援されない場合、理由を教えてください。	異議申し立てをお受けすることはできません。個別の審査結果に関するお問い合わせには、原則として対応いたしませんので、ご了承ください。
	28	審査結果の連絡まで、どれくらいの期間がかかりますか？	年度は、2027年1月中旬を目途に結果を連絡する予定です。
報 告	29	学会発表、論文発表の報告は、学内の発表会や書籍も対象となりますか？	学会発表および論文発表（書籍を含む）に関する報告をお願いすることになります。ただし、学内の発表や学内のみで刊行される刊行物は含みません。
	30	寄付金を使用したプログラムの成果に関する報告は必要ですか？	必要です。プログラム採択次年度末から、合計2回、1年ごとの成果報告をお願いしています。第1回は、プログラム採択次年度末の3月から翌4月までを報告期間としておりますので、所定の様式で記載・提出いただきますようお願いいたします。 報告書には、学内選考通過者の氏名・所属・研究タイトル・研究成果（学会発表数、論文発表数等）のうち秘密情報を含まない範囲の情報、その他寄付金活用の進捗・成果に関する状況、学外への情報発信の内容等をご記載いただきます。なお、秘密情報に該当する情報は報告書に記載しないようお願いいたします。
そ の 他	31	支援が決定した場合、寄付金はどのように支払われますか？	2027年1月以降、手続きが終了しだい、指定された銀行口座に振り込みます。なお、寄付金額は申請金額の通りとはならない場合があります。
	32	本プログラムに関する問合せは電話でできますか？	お問い合わせは、本サイト内のお問い合わせフォームにて受け付けし、回答いたします。
	33	知的財産権を含む、得られた研究成果の取り扱いについて教えてください。	寄付金による活動から得られる特許権等の知的財産権は、採択された大学・機構に帰属します。
	34	本プログラムは来年度も実施されますか？	来年度以降も継続して実施する予定です。
	35	「はばたく次世代」応援寄付プログラムにて「謝辞」の記載方法について教えてください。	本プログラムの統一名称は下記のとおりです。謝辞等には、以下の名称でご記載ください。 【日本語】第一三共「はばたく次世代」応援寄付プログラム 【英語】Daiichi-Sankyo “Habataku” Support Program for the Next Generation of Researchers なお、本プログラムの対象期間（2年間）以降の成果発表においても、謝辞等への記載をお願いいたします。